

1. 品種特性

- 1) コギクでは珍しいレモンイエロー系黄色の花色を持つ。
- 2) 自然開花期は7月中旬で、7月出荷作型（3月下旬定植）および8月出荷作型（4月下旬定植）のいずれでも開花日に大きな差はない。
- 3) 7月下旬～8月上旬に出荷するためには、エスレル処理あるいは電照処理が必要である。

2. 作型（目標収量：3,500～4,500本/a）

月 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
7月出荷			↓	○×	∩∩∩							■
8月出荷				↓	○×							■
				↓	○×☆☆☆☆							■
				↓	○×E-E							■

（↓：さし芽，○：定植，×：摘心，∩：トンネル，☆：電照，E：エスレル処理，■：出荷）

3. 育苗

- 1) 親株はハウス内のビニールトンネルで越冬し、さし芽30～40日前に新芽を摘心したのち、発生したわき芽を10cm程度で採穂する。さし穂は4～5枚の葉をつけたものを用いる。
- 2) さし芽は排水性・保水性の良い無病の床土あるいはプラブトレイ（200穴程度）に行く。3～4cm間隔で3cmくらいの深さでさす。
- 3) さし芽後は十分に灌水し、その後5～6日控える。さし芽後1週間はビニールと寒冷紗をかける。
- 4) 発根後、徐々に外気と日光に当てていく。

4. 施肥

- 1) 有機肥料や緩効性肥料を主体とした元肥を、窒素、リン酸、カリを成分で各1.5kg/a施用する。
- 2) 元肥と同時に完熟堆肥200kg/aを定植15日前までに施用し、十分に土壌混和しておく。

5. 定植・栽培管理

- 1) 基本はマルチ栽培で、畝間1.2～1.4m・株間10～12cm・条間30～40cmの2条植えとする。
- 2) 苗が十分に活着したら生長点を浅く確実に折り取って摘心し、側枝を伸長させる。
- 3) 4月以降、生育が揃った側枝を1株当たり3本残すように整枝する。
- 4) 7月出荷作型では高さ30～40cmの小トンネル（農ポリ）で被覆し、4月に晩霜がないことを確認してからトンネルを撤去する。

6. 開花調節

- 1) 露地電照で10日程度、エスレル処理で14日程度開花を遅らせることが可能である。
- 2) エスレル処理を行う場合は、エスレル10の500～1000倍液を摘心時に1回、その10日後にさらに1回の計2回を、株全体が濡れる程度散布する。
- 3) 露地電照では、75w電球を生長点から1.2～1.5mの高さで、10㎡あたり1個の割合で設置する。
- 4) 電照時間は夜間4時間、期間は定植後から6月15日頃を目安に行う。



7. 病虫害防除

- 1) 無病苗を用いるとともに、病虫害の予防的防除を徹底する。
- 2) 連作を避け、窒素肥料の過多、排水不良に留意する。
- 3) わい化ウイルス病を発見したら抜き取り処分し、親株を更新する。

8. 収穫・調整

- 1) 切り前は販売先に応じたものとする。
- 2) 収穫は涼しい時間帯に行い、収穫後は萎れる前に水揚げを行う。

問い合わせ先

生物工学研究所 果樹・花き育種研究室 電話 0299(45)8330
園芸研究所 花き研究室 電話 0299(45)8341